

後志支部活動状況報告

1. 活動方針

令和元年度から研究団体の一つとして活動を始めることができた。本会のテーマとして、だれもが総じて質の高い体育授業を行うことができるようになることを大きな目標としてとらえている。授業づくりに係る様々な情報を発信し、広く普及させることで、体育に対する負担感を軽減し、どの学校・どの学級でも日常的に質の高い授業を続けていくことができる未来を目指していきたい。

令和元年度は、「仲間をふやす」「できることを少しずつ」をモットーに、活動を進めた。後志に合った形で、会員とその他の教員を結びつけ、会の活動や日々の業務や授業実践を楽しみながら、活動ができるようにするにはどうすればよいか探りながらの活動を行っている。

2. 研究および活動の視点

だれでもできる 無理なく続けられる 体育の授業づくり

[視点①] どの子にも「できた!」がある授業

■UDの視点から見た授業改善

- ・教師の明確な指示・発問
- ・上達をうながす練習方法や場の設定
- ・単元全体のデザインや目標・課題設定

■対話から生まれる気づきと技能の向上

- ・課題解決に向けた身体感覚の共有
- ・チーム内での役割意識や互いを生かす動きの共有

■ICT活用による視覚化

- ・問題場面・課題把握の明確化、焦点化
- ・自力解決や対話の切り口

[視点②] 小中9年間をつなげる指導と評価

■目指す子どもの姿の明確化と具体化

- ・発達段階に応じた目標設定とゴールの姿を見据えた指導
- ・子どもの姿をもとに同じ視点での評価

3. 活動報告

■後志学校体育研究会設立集会

3月8日(金) 倶知安町にて開催

■北海道学校体育研究大会釧路大会

10月11日(金) 2名参加

■第1回体育授業研究会

11月22日(金) 仁木町立仁木中学校

授業者 宮川 脩平 教諭

領域 器械運動「跳び箱運動」

『はねる感覚を身につけよう』

(台上前転から首はね跳びへ)



【成果と課題】

○ICT機器を活用した課題把握および課題解決へのアプローチ(2画面同時再生での比較、遅延再生アプリを利用した演技の確認)

○段階的に練習に取り組める場の工夫

●位置や数値など具体で示す等、どの子にも分かりやすくなる授業のUD化

●技の感覚やポイント等、伝え合う場面の意図をもった設定

●単元を通した「共通用語」や相互評価につながる視点の共有化

■全道研究担当者研修会

12月13日(金) 1名参加

4. 今年度の課題と活動内容

■組織と活動の拡大

- ・若手教員を中心にネットワークを拡大中

■授業研究

・『指導上の困り感』が多い領域での提案授業を提供する

・気軽に無理なく、互いの授業を見合い、日常実践に生かす

■情報の発信・活動の普及

- ・電子メール等による情報提供

(広域性をカバーする手立てとして)